



元気とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2024年07月29日 第1178号「週刊五十嵐レポート」

それは搾取ではないか

7月25日付日経新聞、「最低賃金1054円に上げ」という記事。

2024年度の最低賃金が全国加重平均で時給1054円を目安とすると決まった。企業はさらなる賃上げを迫られることになる。各業種で人手が不足している。企業間で独自に賃上げは進む。一方、経営体力に乏しく賃上げ余力の少ない中小・零細企業が存在する。生産性の向上がキーポイントになる。

ある物販会社(東京都)の話。地方に店舗を展開している。直近に新店舗を出す計画。不人気業種のため人材募集に苦労をしている。その理由を聞くと、1つは給料が低いから来ない。2つ目はカスタマーハラスメント(顧客から企業や従業員に対し理不尽なクレームや不当な要求等の行為)が多い仕事。

なぜ給料が低いのか尋ねると、(地方の)最低賃金に100円乗せているが、なかなか集まらないという。カスタマーハラスメントに関しては、自社には特に受けていないので影響はないという。

昔、会社(本社東京)勤めしていた頃、地方に転勤しても給料は全国一律だった。逆に地方にいた頃の方が可処分所得は多かった。おたくは東京本社で、商品は東京で販売しているものと地方で販売しているものは同じで価格も変わらない。労働条件も変わらない。なぜ人件費は東京より安い地方の最低賃金を基準に考えるのか。見方を変えたらそれは「搾取」(資本家が労働者に労働に見合った賃金を払わず、その利益のほとんどを独占すること)と同じではないか。

時給2000~3000円でも黒字店にする仕組みを考える。裏を返せば、「強いもの作り」「一番作り」⇒「良い商品づくり」につながる。顧客に喜ばれる高付加価値商品を強化していく。商品に誇りを持ち、顧客に支持される。仕事に誇りを持つことができる。「時給2000~3000円」というのは発想の転換である。「最低賃金」の発想で店づくりをしては、将来はない。人材募集している企業と差別化できず、また良い人材も来ない。

当面は「東京基準」で黒字化出るようにして人材を集め、教育育成する。

ちよつと
気になる出来事

7月25日付日経新聞、「日本人減86万人で最大」という記事。

総務庁は人口動態調査を発表。1月1日時点の日本人は1億2156万人で前年から86万人減少。外国人は過去最多の332万人となり、初めて300万人を超えた。

15~64歳の生産年齢人口は総人口の59.71%と前年からほぼ横ばい。日本人全体に占める生産年齢人口の割合は59.02%。外国人全体に占める割合は85.22%。外国人は留学生や技能実習生などに20歳代が多く、労働力需要の重要な担い手になっている。

7月22日付日経新聞夕刊、「宮大工の塾、若手育てる」という記事。

宮大工の数が減少の一途をたどっている。専門の宮大工は全国で千人以下といわれている。若手の育成が急務。従来の徒弟制度ではなく、数年で一人前になれる教育の仕組みが必要。16年「宮大工養成塾」を設立。3年間カリキュラムをこなし、日本各地で腕を磨く。

「人口減少」「外国人労働者」「人手不足」から新たなビジネスチャンス・革新が生まれる。やはり「変化」は面白い。打つ手は無限。



一口メモ
知識

幾(き)を知る

幾(き)を知るは神(しん)か。

「幾」とは、わずか、微妙な、機微(きび)を意味する。物事が大きく動く微細なきっかけであり、別の言い方をすると兆しである。「幾を知る」とは、萌芽(ほうが)を見て春を知ることではない。まだ現象面に表れない、眼に見えないものを察することをいう。

たとえば、「桐一葉落ちて天下の秋をしる」(桐の一葉が落ちるのを見て、天下衰亡の時と腑に落ちる)という句のように、一瞬にして結果を知る。

これは常人には及ばない直観力であると易経はいう。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時~12時
- 「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5
TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

